

《浄土寺》

浄土寺は、四国八十八ヶ所霊場第49番札所です。奈良時代に活躍した行基（ぎょうき）というお坊さんが開創したと伝えられています。本堂は、小さな修理はあるものの、室町時代のもので、国の重要文化財に指定されています。もともとは、その名のおり浄土宗のお寺だったのですが、空海（くわかい）が始めた真言宗に変わっていったようです。

仁王像が並ぶ立派な山門や、仏足石なども見所です。また、浄土教を始めた空也上人（くわや しょうにん）がこの地に滞在し、自ら刻まれた自像とされる木造の立像が重要文化財として保存されています。寺務所には、口から小さな仏が連なって出ている空也上人立像の写真が展示されています。



【仁王門】



【正面が本堂、右が大師堂】



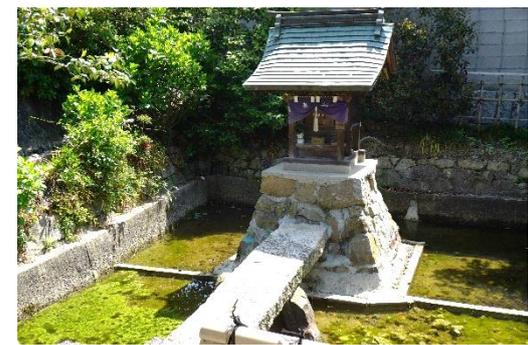
【右が空也上人立像の解説】



【仏足石】



【即身成仏頌（詩歌）】



【弁天堂】